



- ◎監督・撮影・編集／ニコラ・フィリベール
- ◎配給／ロングライド
- ◎公開／11月1日（金）から東京武蔵野館、23日（土）から伏見ミリオン座（愛知）およびKBCシネマ（福岡）、29日（金）からチネ・ラヴィータ（宮城）、ほか全国にて順次公開

『人生、ただいま修行中』

フランス・パリの看護学生 40 人の
150 日間を追うドキュメンタリー

『パリ・ルーヴル美術館』や『ぼくの好きな先生』で知られる現代ドキュメンタリーの名匠の一人、ニコラ・フィリベール監督。その最新作は、フランスの看護学校で学ぶ学生の150日間を追うドキュメンタリーだ。

主役はパリ郊外の看護学校で学ぶ、年齢、性別、出身地が多様な40人の学生たち。採血も点滴も抜糸もギブスを外すことも、最初は全てが初体験。右も左もわからなかった彼らは、学内での学びを経て、やがて「実習」という現場に出ていく。

つまずき、時に笑い、苦悩し、それでも少しずつ成長していく様子が、

極端に説明を排した手法で描かれる。

全体が3つのパートに分かれる本作の中でも印象に残るのが、最後の、実習を経験した学生と教員が1対1で行なう面接のシーン。次々と映し出される学生と教員とのやりとりから、観客は、それまでに観てきた場面の答え合わせをしている気持ちになる。教員の態度にも、日本との共通点や違いを感じて興味深い。

実習場所のほとんどは病院だが、看護学生だった本誌読者の方には必ず心に響くセリフやシーンがあるはず。気になる方はぜひ上映館に足を運んでみては。